

※クリックすると記事のページを開きます。

①ラオス国立大学教員による講演：ラオス国立大学スリカン・タムマウォン先生による講演「ラオスの諺について」.....	2
②配信動画を使用したラオス語学習（2020 年 12 月）：オンラインラオス留学のための事前学習.....	4
③オンラインタンデム学習報告（2020 年 11 月 24 日）：私の家族について.....	6
④オンラインタンデム学習報告～2021 年 1 月 26 日のタンデム学習に参加して～	8
⑤オンラインタンデム学習報告～2021 年 1 月 27 日のタンデム学習に参加して～	9
⑥ラオス国立大学学生への講演：東京外国語大学名誉教授坂本恵先生による講演「敬語コミュニケーション」..	11
⑦ラオス国立大学教員による講演：ラオス国立大学マイポーン・ドゥアンパシー学科長による講演「ラオスのお正月について」.....	13
⑧豊洲オンラインツアー	15
⑨オンラインショートビジット報告（2021 年 1 月 25 日～29 日）	16
⑩オンラインショートビジットの感想（2021 年 1 月 25～29 日）	21
⑪ラオス国立大学学生への講演：東京外国語大学名誉教授坂本恵先生による講演「聴解「富士山」について」24	

①ラオス国立大学教員による講演：ラオス国立大学スリカン・タムマウォン先生による講演「ラオスの諺について」

東京外国語大学特定外国語主任教員

ブアソーン・タマチャック

1. 講演の概要

東京外国語大学ラオス語専攻は、2020 年 11 月 24 日（火）10:10-11:40 にラオス国立大学のスリカン・タムマウォン先生による「ラオスの諺について」というオンライン講演を実施しました。これは日本の学生たちにラオス文学、とりわけラオスの諺についての理解を深めてもらうためのものです。参加者は合計 2 名で、内訳は教職員 7 名、学生 2 年から 4 年が 13 名（2 年 7 名、3 年 5 名、4 年 1 名）でした。



約 40 分の講義のあと、スリカン先生と学生との間で内容について質疑応答が行われました。学生からは以下のような質問がありました。

1. （日本の諺を挙げて、）これと先生が挙げたラオスの諺の意味は同じですか？
2. 新しいラオスの諺は誰が考えるのでしょうか？
3. ラオスの諺はどのようなところから作られるのですか？
4. 会話中、ラオス人は諺をよく使いますか？ それはなぜですか？
5. ラオスでは普通、子どもは諺を口にしますか？

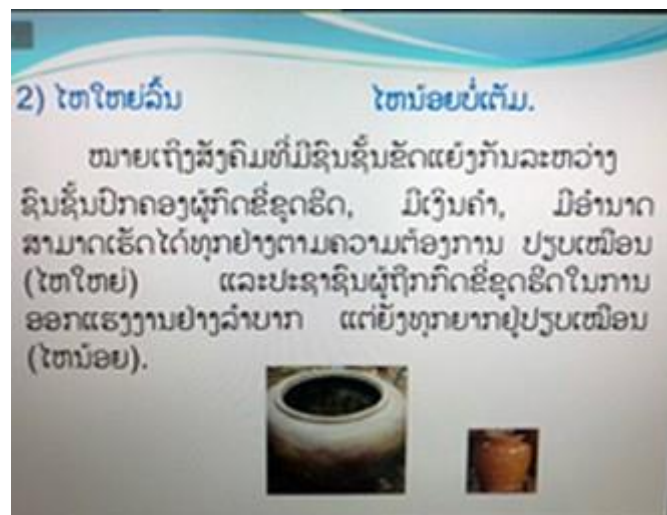
6. 日本では子どもは試験のために諺を覚えますが、ラオスでも同じですか？
7. “sangmue mannyaak, sangpaak manngaay”（言うは易し、行うは難し）という諺をスリカン先生はよく使いますか？

今回の諺についての講演は終始穏やかな雰囲気の中、楽しく行われました。

2. 講演の成果

今回の講義は十分な成果をもたらしたと思います。けれどもラオスの諺の中にはとても難しい語彙が使われていること（比喩や韻など）から次のような学生の感想がありました。

1. 今回の講義（諺）には難しい言葉が多かったので、内容を理解するのは難しかったです。
2. 講義を聞くだけで理解するのは難しいので、講義の資料を見ながら聞くと理解が深まると思いました。



最後にご講演下さったスリカン先生をはじめ、この講演会に参加された教員、学生の皆さんにお礼を申し上げます。

どうもありがとうございました。

②配信動画を使用したラオス語学習（2020 年 12 月）：オンラインラオス留学のための事前学習

2020 年 12 月 1 日、22 日の 2 日間、ラオス語専攻の 1, 2 年生合同で、ラオスからの配信動画を使用したラオス語の授業を実施いたしました。ラオス語専攻では、コロナ禍により、ラオスでの短期ラオス語研修ができなくなった代わりに、2021 年 1 月末にオンラインでのラオス留学を予定しております。今回の授業は、その事前学習も兼ねて実施いたしました。

両日ともに、ラオスの首都、ビエンチャンの寺院や市場などを紹介する動画を閲覧し、自然な速さのラオス語をどのくらい聞き取ることができるのか、内容をどのくらい理解できたのかを、各自、確認し、理解できなかった箇所や疑問点を書きだしました。参加した学生の感想は、

- 「今」のラオスをよりよく知ることができた。
- 最新のラオスのことを観ることができる映像は自分にとってかなり貴重なものであったし、ますますもっと知りたい、もっと聞き取れるようになりたいと刺激を与えるものでもあった。
- 今まで授業の中で写真でしか見ていなかったラオスの様子を映像で見ることができイメージをつかむことができた。
- 写真や文章ではなくビデオを見ることができたので、今まではわからなかった場所ごとの雰囲気を感じることができました。特に市場の映像は人々のやり取りの声や活気を感じることができて雰囲気がよくわかりました。
- 今回の映像を見て、現在のラオスの様子が伝わり、ラオスを身近に感じることができました。
- 自然なラオス語を聞き取るのは難しいと感じた。

などでした。

今回、理解できなかった箇所や疑問点は、オンライン留学時に、オンラインツアーやラオス国立大学の先生方によるラオス語講義等を通して学んでいく予定です。

オンライン留学は、現地に行っている経験が難しい状況で、現地を知り、学習意欲を高める大きなきっかけになることが期待されています。今回の事前学習がオンライン留学の効果を高める一助となることを願っています。



授業の様子（2020 年 12 月 1 日）



授業の様子（2020 年 12 月 22 日）

③オンラインタンデム学習報告（2020 年 11 月 24 日）：私の家族について

コロナ禍で対面のコミュニケーションが難しい中、協定校であるラオス国立大学の協力を得て、下記要領で双方の学生がオンラインによるタンデム学習を実施しました。

日時：2020 年 11 月 24 日（火） 12:40～14:10

学習テーマ：「私の家族について」

学習形態：オンライン zoom による学習・討論

参加人数：東京外国語大学ラオス語専攻 1 年生 8 名、ラオス留学生 2 名

ラオス国立大学文学部日本語学科 3 年生 5 名

初めてのオンラインによるタンデム学習であったので、最初に自己紹介をしました。その後、見本としてブアソーン先生や日本語学科 4 年生から自分の家族紹介をしていただき、そのラオス語の聞き取り練習をしました。残りの約 1 時間で日本人学生とラオス人学生混合で 5 つのグループに分かれ、自分の家族紹介をし、日本とラオスの家族像についてお互いに意見交換をしました。

実施後、日本人学生からは「初めてラオスの学生さんと話し、緊張したが楽しかった」「将来のことを話したり、ラオスの様子を知ることができ、ラオスへ行きたくなった」「日本とラオスの家族に対する想いが違っていた」などの感想が寄せられました。

参加してくれたラオス国立大学文学部日本語学科の学生さん 3 名からも感想が寄せられましたので以下に紹介いたします。

（東京外国語大学ラオス語専攻教員 鈴木玲子）

1) M.N.さん（ラオス国立大学日本語学科 4 年）

このオンラインの授業に参加し、自分の家族を発表し、日本人の学生たちとラオス語や日本語で会話できてとても嬉しかったです。1 年生の学生さんは思ったよりラオス語がとても上手でびっくりしました。また今度このような機会に参加させていただければとても嬉しく思います。

2) L.S.さん（ラオス国立大学日本語学科 4 年）

一年生の皆さんと久しぶりにラオス語の授業でもう一度 Zoom で会えて、本当に嬉しかったです。オンラインでラオス語と日本語でいろいろな話で交流できました。一年生がラオス語で家族を発表してくれましたが、内容が素晴らしくて、私が発音もきれいで驚きました。日本の家族は皆、だいたい仕事場や学校の近くに住んでいて、それぞれ別々の所に住んでいる人が多いということがわかり興味深かったです。ラオスの家族は皆、一緒に住んでいて大家族で、仕事場も自分の家から近くのところに行きます。今回の授業に参加できてとても嬉しかったです。また日本の学生さんと会えることを心から願っています。

3) N.X.さん（ラオス国立大学日本語学科 4 年）

このところ、コロナウイルスが流行しているために日本人とあまり話す機会がありませんでした。この授業を通じて日本人との会話ができましたし、日本人の一年生もラオス人の発音が聞けることができて、とてもいい機会だと思いました。今回の話は、「自分の家族」という話題でした。私の家族を日本人に紹介し、日本人も日本人の家族を紹介してくれて、違うことがわかりました。例えば、日本人の家族は大学に入ると大部分は両親と一緒に暮らしていない学生が多いです。一方、ラオス人の家族は、そうではなくて、大学に入ってもまだ両親と暮らしている学生が結構多いです。今後もこのようないい機会に参加して、会話をしたいと思います。

以上

④オンラインタンデム学習報告～2021 年 1 月 26 日のタンデム学習に参加して～

ラオス国立大学文学部日本語学科 4 年
マハッサジャン・ナンタラート

こんにちは。私はマハッサジャンと申します。日本の名前もあります。さくらという名前です。今回の授業に参加させていただき、とても嬉しかったです。2021 年 1 月 26 日に東京外国語大学の 1 年生と 2 年生の授業でタンデム学習をしました。とても楽しかったのですが、楽しいことだけでなく多くのことを学びました。それはラオスと日本の名前の意味と由来についてです。



名前の由来を紹介するマハッサジャンさん

その日はグループ分けをして、それぞれのグループで名前の意味と由来というテーマを話し合いました。その後、それぞれのグループの代表が話し合いからわかった両国の文化の同じところと違うところを発表しました。発表した内容を聞くと、日本とラオスの名前の意味と由来には違うところがあることがわかりました。ラオス人の名前は宗教と関係があり、良い意味をつけようとします。しかし、日本人の名前は漢字と関係がありました。もし、その漢字を知っていたらすぐ意味が分かりますが、ラオス人の名前の意味は分かりにくいので、ラオス人でも理解できないことがあります。

次にラオスと日本のなぞなぞについても学ぶことができました。日本のなぞなぞは音や意味の言葉あそびをしていて、とても複雑で難しかったです。ラオス語に翻訳してもらっても、全然答えられない問題もありました。日本人の学生たちといろいろ交流することができて嬉しく楽しかったです。

次回、このような機会があったら、また是非参加したいです。



一緒に zoom に参加

⑤オンラインタンデム学習報告～2021 年 1 月 27 日のタンデム学習に参加して～

ラオス国立大学文学部日本語学科 4 年
ニラミット・サイソムペン

ラオス国立大学と東京外国語大学の学生のタンデム学習は、2021 年 1 月 27 日に行われた。参加した学生は 40 人で、日本人 20 人とラオス人 20 人だった。

この日のラオス－日本人学生のタンデム学習のトピックは 3 つあった。「日本の各地方の伝統的な料理や製菓」「日本人の名前の由来」「オノマトペとなぞなぞ」である。以下にその内容と感想を述べる。

1. 日本の各地方の伝統的な料理や製菓

日本人学生の 2 年生が日本の北から南の地方の伝統的な料理や流行しているお菓子を紹介してくれた。北の北海道のおすすめ料理は、「石狩鍋」だった。これは有名な鍋料理で、熱い料理なので、寒い季節にはぴったりだ。私も私の友人もラオスの学生は皆、この料理を見てとても食べてみたい気持ちになった。そして、関東地方は「もんじゃ」をお勧め料理にしていたが、この料理はお好み焼きに似ていた。でも水が多くてねばっこい感じがした。まだ食べたことがないので、いつか食べてみたい。近畿地方のおすすめのお菓子としてサツマイモかき氷を紹介した。とてもおいしそうで、ラオス人がよく食べるビンスーと似ていた。



石狩鍋の説明をする日本人学生

2. 日本人の名前の由来

日本人学生の 1 年生が昨日のタンデム学習の成果をいかして自分の名前の由来を発表してくれた。昨日のタンデム学習と今日の 1 年生の発表で日本人の名前の特徴が大体わかるようになった。日本人の名前は、漢字の音や意味などから名前を作っている。例えば、2 年生の○△さんは、「○」の意味は「賢い」という意味で、「△」は生まれた季節を表し

ていて「○△」という名前になったそうである。一方、ラオス人の名前は仏教に関する名前が多い。例えば私の名前は「ニラミット」で、「ニラミット」の意味は、「決める、書く（僧侶用語）」だ。

3. オノマトペとなぞなぞ

日本とラオスのオノマトペやなぞなぞについていろいろ意見を出し合った。とても楽しかった。まずグループワークで、お互いの言語のオノマトペを紹介した。オノマトペの比較では 2 つの言語が異なっても同じものを指す単語があることがわかった。例えば、小雨の音は、日本語は「しとしと」ラオス語は、/yip yip/などである。

また、昨日のなぞなぞの学習を踏まえてさらになぞなぞを出し合い、ラオスと日本のそれぞれの特徴を考えた。以前は日本のなぞなぞが全然わからなかったが、昨日と今日と続けて話し合っとなぞなぞの特徴がわかるようになった。日本のなぞなぞは言葉遊びや漢字の音から来るなぞなぞがかなり多い。例えば、「ご飯を食べる時、いつも抱いているものはなあに？」というなぞなぞの答えは「板」だ。それは「いた + だきます」、つまり「板 + 抱きます」だからだ。



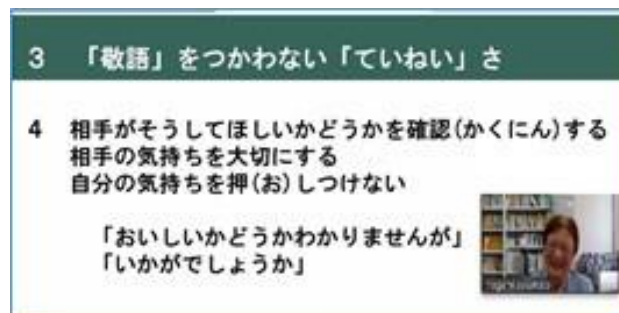
なぞなぞを出すニラミットさん

このタンデム学習は、とても役に立った。今回のトピックを通じて、2 つの言語のさまざまな違いや特徴がわかりとても楽しむことができた。また機会があれば、もう一度参加したいと思う。どうもありがとうございました。

⑥ラオス国立大学学生への講演：東京外国語大学名誉教授坂本恵先生による講演「敬語コミュニケーション」

1. 講演の概要

2020 年 12 月 14 日（火）12:00-13:30（ラオス現地時刻 10:00-11:30）、日本語学・日本語教育学がご専門の本学名誉教授（現、日本大学文理学部教授）の坂本恵先生による「敬語コミュニケーション」というオンライン講演を実施しました。



ラオスの学生に笑顔で語る坂本先生

これは、協定校であるラオス国立大学の文学部日本語学科の「コミュニケーション学 3」という授業を履修している3年生 22 名を対象とした講演でした。学生一人一人がパソコンからアクセスするのが難しかったので、教室で 1 台のパソコンを使って、広角カメラで全員が入りました。皆、食い入るように画面を見つめ、全員の表情がこちらもとてもよくわかりました。また、ラオス側も坂本先生の表情も声も投影資料もとてもきれいに受信できたとのことで、当初はうまく行くか大変心配でしたが、それは杞憂に終わりました。

講演は、敬語の形そのものの使い方だけではなく、敬語を使わない丁寧な表現やさまざまな敬語コミュニケーション場面の表現など、具体的な例を投影しながら進み、約 1 時間の講演はあっという間でした。その後、学生からの質問を受け付けましたが、笑いあり、順番待ちありで、終始なごやかな雰囲気の中、一人ずつカメラの前に出てきて坂本先生と直接やりとりしました。

2. 参加学生の感想

講演後、参加した学生から日本語で感想文が寄せられました。紙面の都合上、全てをここに掲載できないのが大変残念ですが、その一部を紹介させていただきます。

（内容は不変のまま、文法的表現を一部修正しました）



熱心に質問するラオス人学生

・P さん：敬語を使うのが苦手ですから、先生や他の人と日本語を話す前に、言葉を考えるのに長い時間がかかります。坂本先生と勉強して、敬語の使い方はたくさんあるとわかり、自分も前向きに使おうと思います。将来の仕事に勉強したことを最大限いかしたいです。

・B さん：今日は先生と敬語を勉強しました。オンラインで勉強しても、敬語の使い方について新しい知識をもらいました。本当にありがとうございました。機会があったら、もう一度勉強したいです。

・P さん：日本語の敬語について、場面によっていろいろな形の敬語の使い方があることを勉強しました。例えば、ありがとうの気持ちがあるとき、否定するとき、はっきり言わないとき、相手の気持ちを大切にするとき、あらたまるときなどです。敬語の知識が増えました。

・S さん：日本人のコミュニケーションでは敬語はとても大切です。でも、ある場面は敬語を使わなくてもいいことや例えば、日本人の友達に敬語を使うと親しくなれないなど、敬語を使うのは相手に合わせること、自分の気持ちや場面によって使うということなど、前より敬語の使い方がよく分かるようになりました。

・A さん：今日の授業で色々なことが勉強になりました。いままで日本人と話す時に、敬語を使うか、「です」「ます」を使うのか、よくわからないので、ちょっと緊張しました。でも、今は勇気をもって話そうと思います。まだ敬語が苦手ですが、頑張って練習します。本当にありがとうございました。

3. さいごに

このような新しい形での知的交流は、協定校でも初めての試みとのことで、今後も継続していきたいということでした。この講演がラオス国立大学の日本語教育の一環としてお役に立てたことを大変嬉しく思います。

最後に今回のオンライン講演をご快諾下さった坂本恵先生、協定校の担当教員であるマライカム先生に心よりお礼を申し上げます。また、笑顔絶やさず熱心に参加してくださった学生の皆さんにも心よりお礼を申し上げます。

どうもありがとうございました。

東京外国語大学ラオス語専攻教員

鈴木玲子 記

⑦ラオス国立大学教員による講演：ラオス国立大学マイポーン・ドゥアンパシー学科長による講演「ラオスのお正月について」

特定外国語主任教員

ブアソーン タマチャック

東京外国語大学ラオス語専攻はオンライン講演として、2020年12月25日（金）10：10－11：40にラオス国立大学文学部ラオス語学文学科長 マイポーン・ドゥアンパシー先生による「ラオス正月について」と題する講演を行いました。今回の講演は、日本人学生がラオス文化、なかでも特にラオス正月の習慣について深く学ぶためのものでした。参加者は教員が6名、学生が9人（4年1名、3年7人名、1年1名）で合計15名でした。

講演は約40分で、続いてマイポーン・ドゥアンパシー先生と学生との間で以下のような質疑応答が行われました。（⇒がマイポーン先生の回答です）



1. ラオスには毎月、お祭りがありますが、それぞれのお祭りにはラオスのお正月のような由来や伝承がありますか？

⇒ラオスでは毎月お祭りがあり、どのお祭りもお正月と同様、背景となるお話があります。

2. 現在、ラオスの人たちはお正月に何をしますか？

⇒現在はラオスではお正月になると家をきれいに掃除し、お寺に行って仏像に聖水を掛けたり、親戚一同の中の目上の方に挨拶に行ったり、バーシー式を行ったりします。そのほかお寺や川辺に行き砂の仏塔を作ることもあります。

3. ラオスのお正月とタイのお正月はどのように違いますか。両方に同じような伝承がありますか？

⇒ラオスのお正月もタイのお正月も同じように聖水をかけあってお正月を祝います。けれどもいろいろな点で国ごとに独特の祝い方があると思います。

4. ラオス人にとって「ゾウ」は縁起の良い重要な動物ですが、「鳥」もラオス人にとって縁起の良い重要な動物ですか？

⇒「象」は古くからラオスの村々でおめでたくてありがたいものとされてきました。「鳥」も同じように大切にされてきました。ラオス人は誕生日や厄払いのときなどに鳥、亀、魚などを自由に放す、特によく鳥を放します。鳥を放す、つまり放鳥すると幸せな毎日をおくることができ、高く上りつめるようにものが大成功すると信じられているからです。

5. ラオスのお正月の伝承にあるカビンラポム王の7人の娘はどのように選んでいますか。

⇒毎年お正月になると、多くの県、特にルアンパバーン県でミスサンカーン美人コンテストが行われます。7人の純真で美しい女性がカビンラポム王の娘として選ばれます。



他にも「どうして、この伝承はラオスのお正月の由来として信じられていますか。」「プーニュー、ニャーニューはラオス人とどのように関係していますか。」「日本にはお正月に関する伝承物語がありません。でも、ラオスにはあるとわかりましたが、ラオスの人、皆がこの話を知っていますか。」といった質問があり、どの質問にもマイポーン・ドゥアンパシー先生は明快に答えて下さり、とても興味深いものでした。

実はマイポーン・ドゥアンパシー先生は東京外国語大学で教鞭を執ったことがあり、それを知った学生から「日本のお正月についてどのような感想をお持ちですか」という質問が出ました。先生は「日本のお正月を経験できてとても感動しました。日本料理を食べたことなど。特にお正月直前に食べたおそばですね。」と当時のご経験を懐かしそうに話してくださいました。

このラオスのお正月についての講演、終始なごやかで楽しい雰囲気でした。最後にマイポーン・ドゥアンパシー学科長、先生方、学生の皆さん、お忙しい中、最後まで講演会に参加していただき、お礼を申し上げます。

どうもありがとうございました。

⑧豊洲オンラインツアー

2021年2月16日開催の豊洲市場オンラインツアーに参加して

2020－2021年度 ISEP 交換留学生
ルンニー スリチャン

こんにちは。

いつもお世話になっております。

私は東京外国語大学の交換留学生のルンニー スリチャンです。

今回、豊洲市場を見学することができ、とても嬉しく本当に感謝しています。オンラインで見学しても実際のような雰囲気を実感することができました。豊洲市場は興味深く有名な場所で、日本の社会の勉強になりました。特に、大きくて綺麗で整然と運営されていて日本人の生活を便利にしている市場である点です。その他に講演者が簡単な日本語で説明してくれたり、映像を使ってくれたりしたので分かりやすかったです。私にとって一番面白かったことはまぐろの注文の仕方です。私にとって新たな驚きでした。将来、もし日本に行く機会があれば、是非、実際にこの豊洲市場に一度行ってみたいと思います。

最後に先生方とこの催しを企画して下さいました皆様方、どうもありがとうございました。



オンラインツアーの様子

⑨オンラインショートビジット報告（2021 年 1 月 25 日～29 日）

特定外国語主任教員
ブアソン タマチャック

東京外国語大学ラオス語専攻では 2021 年 1 月 25 日から 29 日の日程で、1 年次生 10 名、2 年次生 10 名に対し、ラオス国立大学文学部ラオス語学文化学科と日本語学科のご協力を得て、オンラインでラオス短期留学を実施しました。担当は私、ブアソン・タマチャックと鈴木玲子先生が入りました。このショートビジットの主な内容は次の 3 つです。

1. ラオス国立大学文学部(以下 NUOL)教員による言語文化などに関する講演（時間割黄緑）
2. ラオス国立大学文学部日本語学科学生とのタンデム学習（時間割ピンク）
3. 旅行会社による本学学生のためのオンラインツアー（時間割水色）

時間割は次のとおりです。（黄色は本学側のみの授業）

		1/25/2021 月	1/26/2021 火	1/27/2021 水	1/28/2021 木	1/29/2021 金
1	8:30 10:00	開講式 オリエンテーション	課題・宿題確認 タンデム学習準備	課題・宿題確認 タンデム学習準備	課題・宿題確認 前日授業内容の 確認とまとめ	課題・宿題確認 タンデム学習準備
2	10:10 11:40	NUOL 教員の講演①	タンデム学習①	NUOL 教員の講演②	NUOL 教員の講演③	NUOL 教員の講演④
3	12:40 14:10	Online tour ①	タンデム学習 ②	課題・宿題確認 タンデム学習準備	Online tour ②	Online tour ③
4	14:20 15:50	授業内容の確認 まとめ	NUOL 教員の講演⑤	タンデム学習③	NUOL 教員の講演⑥	タンデム学習④
5	16:00 17:30		授業内容の確認 まとめ	タンデム学習④	授業内容の確認 まとめ	授業内容の確認 最終レポート作成 閉講式

以下にそれぞれの内容を詳細に述べます。

1) NUOL 教員による講演

NUOL 教員による講演は合計 6 回実施しました。

1 月 25 日午前に行われた初回講演は、カムメット・ポーカスリ先生による「カリキュラムの紹介と行事」です。本学学生の留学先でもあるラオス国立大学文学部ラオス語学文化学科のカリキュラムとさまざまな行事を紹介してくださいました。

1 月 26 日はボンミナー・ワンナソーパー先生による「日本語専攻生の中級読解教材における問題点」でした。授業における中級読解教科書の問題点とそのことに対する適切な教授法などを話されました。

1 月 27 日はカムスィー・トンパススト先生による「ラオス語における語句の構成」でした。特にラオス語の語句の構成と意味特徴について一部例を挙げて話されました。

1 月 28 日は講演が 2 つありました。まず午前中は、スィーサムット・スィーソムブーン先生による「ラオス語の公的文書の書き方」がありました。ラオスの公的文書の形式や書き方について具体的に話されました。午後は、ブアポーン・マライカム先生による「ラオス料理とラオス風調理法」という講演がありました。ラオス料理の種類はおかず（副菜）、デザート、麺類などラオス料理の分類法を紹介し、その後ラープ、竹の子スープ、パパイアサラダの材料と作り方を紹介してくださいました。



1 月 29 日の最終日は、セーンファー・ホーラーヌパー先生による「ラオス語の類義語について」でした。ラオス語の類義語の種類や具体的な語彙を紹介してくださいました。また、類義語を使ったお楽しみクイズも行いました。



毎回、ラオスの伝統音楽の演奏や読解教材で気をつけること、ラオス料理の調味料についてなど、さまざまな質疑応答が活発に行われました。学生たちはこの講演によって、ラオスの言語文化のさまざまなテーマを楽しく深く学ぶことができました。各講演の最後には学生側から先生にお礼のことばを述べました。

2) タンデム学習

2 つ目は本学学生と NUOL 文学部日本語学科のラオス学生との言語文化に関するタンデム学習です。

1 月 26 日午前は「自分の名前の意味と由来」、午後は「日本とラオスのなぞなぞ」をテーマに話し合いました。小グループに分かれて自分の名前を紹介したり、自国のなぞなぞを出してその答えを考えたりしました。



1 月 27 日はまず、日本人学生 2 年生による「日本各地の料理」のプレゼンテーションがあり、ラオス人学生は日本各地の郷土料理や製菓を学びました。一方の 1 年生は「自分の名前の意味と由来」を紹介し、日本とラオスの命名の特徴を皆で考えました。後半は日本語とラオス語のオノマトペについて話し合いました。



1月29日の最終日は、日本人学生はラオスにもお盆と似た祭祀儀礼があるという理由から日本語で「お盆について」というタイトルで説明をしました。一方のラオス学生は「タートルアン祭り・ホーカオパダップディン祭・ホーカオサラク祭」についてラオス語で説明を行いました。両方の祭祀儀礼を比較することによって、互いの儀礼文化の相違点や類似点について学ぶことができました。

毎回、これらのテーマで日本人学生とラオス人学生が混在したグループワークを行い、その結果、皆でお互いに日本とラオスの相違点についてより深く考え、意見交換をする機会となりました。また、授業の最後にはグループごとに日本人学生はラオス語で、ラオス人学生は日本語で成果発表を行い、笑い声にあふれ、大いに盛り上がりました。



3) オンラインツアー

もう一つの主な内容はオンラインツアーです。ビエンチャン市内の主要な場所やラオス人の調理法のツアーが旅行会社によって実施されました。

1月25日と29日の午後は両日共、パトゥーサイ、タートルアン、ホーパケオ、シーサケット寺院、アヌ王公園、トンカンカム市場など、ラオスの主要な場所を巡る旅行会社の動画提供によるツアーを実施しました。学生たちはラオス独特の文化が感じられるさまざまな場所を知り、その雰囲気を楽しみました。



1月28日も同じく旅行会社の動画提供で、ラオス人の調理法ツアーを実施しました。具体的には、もち米の蒸し方、牛肉のラップやパイアサラダの作り方などです。学生たちは古くから伝わるラオス料理の調理法やラオス人の食事スタイルや食べ方など、ラオス人の日常生活の様子を学びとることができました。

それぞれのツアーのあとには学生とガイドさんとの間で質疑応答があり、そのことによってさらにいろいろ知ることができました。まるでその場所に行ったかのような雰囲気を味わえることができました。けれどもやはり本物を見て感じることはできませんので、いつか近いうちにラオスへ行けたらいいなと思います。

東京外国語大学ラオス語専攻の日本人学生のためのショートビジットは終始楽しい雰囲気の中、すばらしい成果を収めることができました。この取り組みは世界展開力事業「日本発信力強化に貢献するミャンマー・ラオス・カンボジアの知日人材養成プログラム」の支援を受けたことを申し添えます。



どうもありがとうございました。

⑩オンラインショートビジットの感想（2021 年 1 月 25～29 日）

東京外国語大学
ラオス語専攻 1・2 年

ラオス国立大学のご協力を得て行ったオンラインショートビジットに参加した東京外国語大学ラオス語専攻 1，2 年次生のレポートから感想の一部を紹介させていただきます。

【1】講演

1) ラオス国立大学、ラオスの伝統料理の作り方、ラオス語の類義語などのたくさんの講義をしてくださり、ラオスのことをすべてラオス語で学ぶ機会は今回が初めてだったのでとても難しかったのですが、ラオスの先生方も一生懸命伝わるように説明してくださって大変興味深い講義でした。

2) 講義では、語の構成や類義語を新たに学んだり、方言など、ラオス語のいろいろな表現を知ることができました。日本語とラオス語の中級読解の比較も勉強になりました。また、先生も親切に質問に答えてくださって、嬉しかったですし、とても実りのある時間でした。

【2】タンデム学習

1) ラオスの学生との会話では日本語とラオス語の両方を使って楽しく交流できてうれしく感じました。

2) ラオスの学生との交流会に関してはお互いが気になったことをすぐその場で質問し合えるので、興味に沿って掘り下げていくことができとても楽しかったです。

3) 今回は交流する時間もかなり長くこちらはラオス語で、相手は

日本語で実践的に会話をするとても良い機会だったと思います。またその会話のテーマに関しても、ラオス語のオノマトペや



大学行事・カリキュラムの紹介



中級読解の問題点



名詞句の構造



なぞなぞを出すラオス学生

なぞなぞなど、普段のラオス語学習では触れる機会のない分野のことについて話すことができ、文化の違いがこういう言語表現にまで及んでいるということを改めて認識しました。

【3】オンラインツアー

1) オンラインツアーで紹介した場所はどれもラオスの文化や歴史を感じることができるばかりで、どの場所も今度ラオスに行ったときには必ず訪れたいと感じました。

2) 個人的にはラオス料理の動画の方を興味津々に見ました。料理にはその土地の文化が現れやすいため、作り方をみただけで日本と違う部分をいろいろ発見できて楽しかったです。



いろいろなラップとラオス風調理法の紹介



ビエンチャンのいろいろな名所を紹介

【4】全体

1) 全ての講義やイベントを通して、自分が思った以上にラオス語を勉強していくモチベーションが上がったとともに、交流したラオス人の学生たちと友達になることができてとても嬉しく思いました。

2) 全体を通して、普段ラオス語学習ではより正確にという意識が強くありましたが、伝わることのうれしさ、理解したいという意欲、とにかく伝えようと話す力の大切さに気付くことができた、とても意味のある時間となりました。

3) 一週間で語学だけでなく積極性や協調性なども学ぶことができたと思います。ありがとうございました。

4) 特に印象的であったのはラオスの人々の笑顔です。ラオス国立大学の学生さんとの交流の際には、笑顔が絶えず学びを楽しんでいることが伝わり刺激になりました。

5) またこのような機会があれば参加して勉強してみたいです。また、ラオスを訪れた際は今回のラオスの先生や学生のみなさんにぜひお会いしたいと思います。どうもありがとうございました。



以上

⑪ラオス国立大学学生への講演：東京外国語大学名誉教授坂本恵先生による講演「聴解「富士山」について」

1. 講演の概要

2021年3月11日（木）12:00-13:30（ラオス現地時刻 10:00-11:30）、日本語学・日本語教育学がご専門の
本学名誉教授（現、日本大学文理学部教授）の坂本恵先生による「聴解「富士山」について」というオンライン講演
を実施しました。

本講演は、協定校であるラオス国立大学の文学部日本語学科の「コミュニケーション2」という授業を履修している2
年生26名と ISEP 生1名を対象として行われ、教室の都合上、5名1台のパソコンを使っの参加となりました。

2. 講演の様子

講演の内容は、有名な富士山についての聴き取りに始まりました。
富士山の特徴、歴史、富士山関連の芸術、登山にまつわる話など、
多岐に渡っており、皆、一生懸命耳を傾け、画面に見入っていました。
その後、坂本先生のお話に沿って内容を考え、先生の問いかけに答え
る授業形式で行われ、何度も確認しながら進みましたので、最初は難
しそだった学生もだんだんわかってきたようでした。難しい単語は、本学
に留学した経験をもつ学生がアシスタントとして入り、板書したり意味を
説明したりしたそうです。聴きとりの内容確認やまとめ、練習問題から
質疑応答と盛りだくさんで、予定の1時間30分はあっという間でした。

学生からは富士山への行き方、噴火について、さらには聴解の勉強
方法など、さまざまな質問が出ました。坂本先生はそれらの質問に一つ一つわかりやすい日本語で丁寧に答えてくださ
いました。聴解に際しては「メモをとる」「どのような話であったか、どう感じたかを考える」「内容をまとめる」「同じような話をし
てみる」など、学生と共に外国語教育に携わる教員にも聴解の授業で大切なことは何であるかを学ぶ貴重な機会となり
ました。



講演する坂本恵先生



熱心に聞き入るラオス学生

最後に今回のオンライン講演をご快諾下さった坂本恵先生、協定校の担当教員であるマライカム先生に心よりお礼を申し上げます。この講演がラオス国立大学の日本語教育の一環としてお役に立てば幸いです。

どうもありがとうございました。

東京外国語大学ラオス語専攻教員

鈴木玲子 記